

適用と使用方法

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エテホンを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
西洋芝 (ベントグラス) 西洋芝 (ケンタッキーブルーグラス)	スズメノカタビラ 出穂抑制	1.0~1.5 mL/m ²	100~200 mL/m ²	スズメノカタビラ 出穂前	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内

有効成分と性状

種類名	エテホン液剤
商品名	プロキシ液剤
有効成分	2-クロロエチルホスホン酸 21.5%
性状	無色透明水溶性液体
荷姿	1L×6本

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

人畜毒性	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	軽度刺激性あり
	眼に対する刺激性	ウサギ	強度刺激性あり/希釈液では刺激性なし
水産動植物に対する影響	コイ		LC ₅₀ 435mg/L(96hr)
	オオミジンコ		EC ₅₀ 301mg/L(48hr)
	藻類(緑藻)		ErC ₅₀ 377mg/L(0-72hr)

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 本剤は、スズメノカタビラ出穂前に有効なので、時期を失しないように均一に散布してください。
- 効果を安定させるために反復処理を行う場合は、1ヶ月程度の間隔で反復処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、その日の天候に留意し、降雨が予想される時には使用を避けてください。
- 踏圧、すり切れ、高温、低温、多雨、早魃、極端な少肥条件など芝がストレス状態にある時は、少なめの薬量を使用してください。
- 散布後に芝に黄変などの薬害を生じることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育には影響を与えません。
- 本剤の散布に用いた器具類は、使用後できるだけ早く水で十分洗浄し、他の用途に使用する場合は薬害の原因にならないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないように注意してください。
- 誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当を受けてください。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗いし、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないように網囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。
- 飲めません。
- 有効年月日内に使用してください。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲食後等は取り扱い及び作業をしないでください。

- 使用量に合わせて薬剤を調製し、使い切ってください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗いし、適切に処理してください。洗浄液はタンクに入れてください。

⚠ 貯蔵上の注意事項

- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



植物成長調整剤 芝用

スズメノカタビラ出穂抑制



スズメノカタビラの白い穂の出穂を阻止
パッティンググリーンを美しくキープ

登録商標 第5233405号



「出穂抑制」で問題解決!



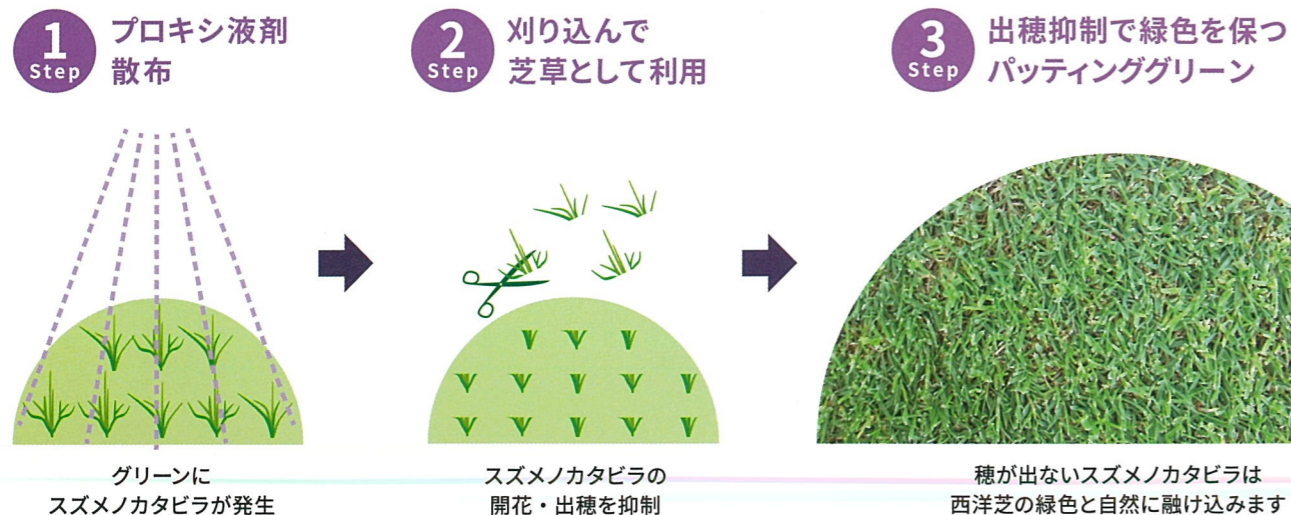
防除が難しいグリーンのスズメノカタビラは 出穂抑制剤で解決

西洋芝もスズメノカタビラも同じイネ科植物

葉の共通点を利点に活用。

- ① 高いグリーンクオリティの実現
- ② スズメノカタビラの出穂を抑制することにより、スズメノカタビラと共存
- ③ スズメノカタビラを芝草として利用
- ④ 緑色で美しく、フラットなパッティンググリーンを提供
- ⑤ グリーンの張替えの必要がなくなり、経費節約に貢献
- ⑥ グリーン管理に関するストレスを軽減
- ⑦ ラビット(跳ねる)ボールを防ぎ、ゴルフプレイヤーのストレス軽減だけでなく、ゴルフ場の評価向上に貢献

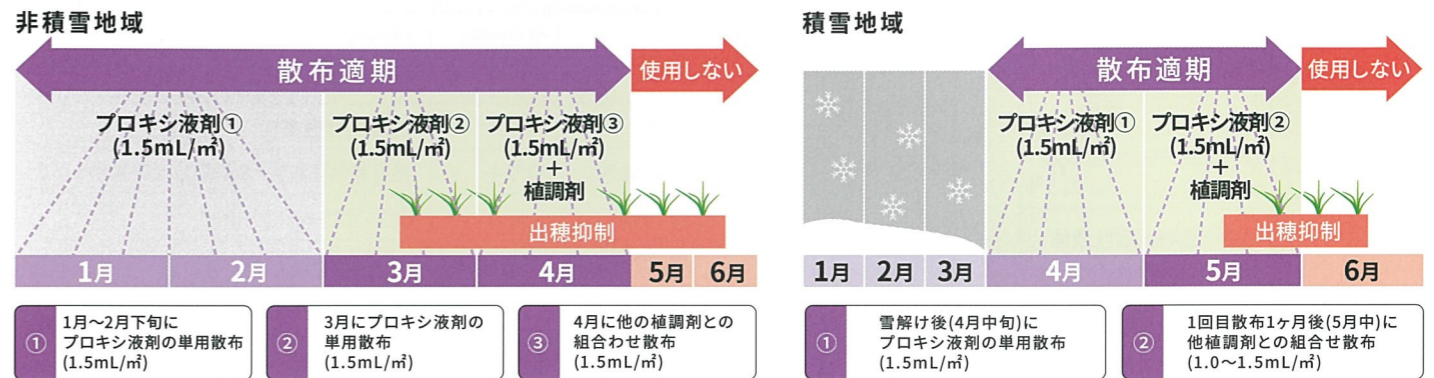
グリーン管理の簡単ステップ



上手な使い方

効果発現に時間を要するので早めの散布がお勧めです。(出穂前/花芽形成前)

薬剤の効果は約1ヶ月なので出穂前に1回目を散布してください。	1回目の散布後は1ヶ月間隔で出穂終了期まで複数定期散布をします。	散布水量200mL/m ² を推奨します。
他の植調剤との組み合わせ散布で更に効果が安定します。	散布水量と均一散布の徹底が重要です。	散布後の降雨は効果に違いをもたらす恐れがあるため注意してください。



⚠ 5月以降の散布は注意!!

⚠ 6月以降の散布は注意!!

注意: 気温が高くなってからの散布は黄変などの薬害が生じる可能性がありますので散布には注意してください。

出穂抑制効果と安全性

供試剤(供試薬量)	プロキシ液剤① 1.5mL/m ²	プロキシ液剤② 1.5mL/m ²	A液 0.05mL/m ²
処理日(2011年)	2/15 3/15 4/15	3/1 4/1 4/30	2/15 3/1 3/15 4/1 4/15 4/30
出穂抑制効果	調査日 3/25 ○ 4/25 ○ 5/24 ○	○ ○~○ ○~○	— × ○
4/25調査			
葉害	無	無	無

プロキシ液剤 (1.5mL/m²×3回)は高いカタビラ出穂抑制効果が認められました。

散布時期は早い方が効果が高い傾向にあります。

◎ 効果大 △ 効果不十分
○ 効果中 × 効果なし

静岡県内ゴルフ場 2011年(社内試験)

プロキシ液剤と他の植調剤との組み合わせの相性

供試剤(供試薬量)	プロキシ液剤 1.5mL/m ²	プロキシ液剤 + C剤 1.5mL/m ² + 0.05mL/m ²	B剤 + C剤 0.05mL/m ² + 0.02mL/m ²
処理日(2011年)	3/2 4/1 4/28	3/2 4/1 4/28	3/2 4/1 4/28
出穂抑制効果	調査日 4/15 ○ 4/28 ○~○ 5/19 ○	○~○ ○~○ ○	○ × ×
5/19調査			
葉害	無	無	無

◎ 効果大 △ 効果不十分
○ 効果中 × 効果なし

東京都内ゴルフ場 2011年(社内試験)